

2024 年度 日本財団助成事業

「国境を越えて移動する子どもと家族のための相談支援」

支援者向けセミナー

実施報告書

2025 年 3 月

社会福祉法人 日本国際社会事業団

1. 開催概要

日本財団の助成を受け、外国につながる家族や子どもの支援に携わる専門職を対象としたセミナーを、2025年1月～2月に2つのテーマで全4回（3講義、1演習）開催した。開催の概要は以下のとおりである。

セミナー用ウェブサイト：<https://www.issj.org/seminar/2024-1/>

【プログラム】

テーマ1 社会的養護下にある外国籍の子どもたちへの支援を考える			
講義1	「外国籍児童の国籍と在留資格」 開催日 2025/1/16（木）18:00-19:30 講師 小豆澤 史絵（弁護士）	申し込み： 108名	
講義2	「外国籍児童のルーツ・アイデンティティを考える ～ライフストーリーワークの視点から」 開催日 2025/2/20（木）18:00-19:30 講師 児童養護施設 合掌苑：成澤 武史（施設長）・長棟 李奈	申し込み： 94名	
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 社会的養護に関わる人 ケアリーバー支援に携わっている人 外国籍の子どもの支援に関わっている/関心がある全ての人 		
参加費	講義ごと 2000円／1講義 テーマ1通し 3500円／2講義		

テーマ2 移住者の多様性に配慮した支援の選択肢を考える			
講義	「移住者支援における「自主的帰国」の選択肢」 開催日 2025/1/23（木）15:15-17:00 講師 清谷典子（国際移住機関 IOM）	申し込み： 40名	
演習 (対面)	「文化的な理解を踏まえた移住者支援の実践」 開催日 2025/2/2（日）13:00-16:00 講師 ヴィラーグ ヴィクトル（日本社会事業大学准教授）	申し込み： 16名	
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の支援に携わっている人 (外国人相談窓口の相談員や外国人支援を行う民間団体の職員など) 困窮者支援等の福祉の現場に携わっている人 移住者の支援に関心がある人 		
参加費	講義のみ 2000円 演習のみ 3500円 テーマ2通し 5000円		

2. 各テーマの振り返り

【テーマ1 社会的養護下にある外国籍の子どもたちへの支援を考える】

2020年度に実施された厚生労働省の調査によると、約4割の児童福祉施設に外国籍児童が入所していることが明らかとなった。コロナ禍を経てなお全国的に増加の一途をたどる在留外国人数と同様、児童福祉施設に措置される外国人児童の数も増加していることは想像に難くなく、近年、ISSJにも児童相談所や児童福祉施設の方から数多くの多様な相談が寄せられるようになっている。各児童福祉施設において外国籍児童の存在は特別なものではなくなりつつある一方で、外国籍ゆえに生じる課題の理解と適切な介入について、苦手意識を抱え、苦慮している様子が見受けられる。

講義1「外国籍児童の国籍と在留資格」では、外国籍児童の支援において第一に欠かせない要素でありながらも、その複雑さから苦手意識が高い在留資格と国籍という、法的な側面に焦点を当てた。在留資格を把握することの重要性と、在留資格に即した支援計画を立てることの意味を、事例を交えながらご講義いただいた。テーマにある通り、対象者は社会的養護の子どもたちに関わる人としていたが、外国人相談窓口や国際交流協会職員の申し込みも多く、外国人支援全般においてニーズの高さが見られた。

講義2「外国籍児童のルーツ・アイデンティティを考える～ライフストーリーワークの視点から」は、外国籍入所児童とその家族に対する極めて先進的な事例を他の施設や児童相談所関係者に紹介することを目的とし、今年度のセミナーに組み入れた。日本の児童養護施設で親元を離れて育つ外国籍児童が、自身のアイデンティティを確立していく過程において、施設や児童相談所が果たせる役割とは何なのか、示唆に富んだ講義となった。

【テーマ2 移住者の多様性に配慮した支援の選択肢を考える】

近年、在留外国人数は過去最高を更新し続けており、労働者だけでなく、その家族として来日する人、婚姻による来日、紛争や迫害を逃れて避難する人など、滞在理由や背景の異なる多様な人々が生活者として地域で暮らしている。そのような移住者への相談支援は、決して一様なものではなく、「移住者」の中にある多様性に目を向けなければ、有効な支援を提供することは難しい。各地域で外国人の存在が珍しいものではなくなった今、「外国人支援」と一括りにしたところから一つ先へ進む必要がある。当事者をよりよく理解し、適切なアセスメントを行い、当事者ニーズに即した支援を提供するために必要なスキルを身に着け、多様な選択肢に対応できるようになることが望ましい。

講義では、コロナ禍以降、件数が増加傾向にある帰国をめぐる相談について、「自主的帰国」という切り口で、そのアセスメントから実際に帰国に至るまでの道のりについてお話しをいただいた。ISSJからも事例を提示し、一見容易なものと考えられがちである「帰国」の背後にある、様々な手続きや国境を越えた環境調整、当事者の意思の尊重について検討した。今後、多様な人々の定住化が進む中で、自主的な帰国という選択肢も念頭に置いておく必要性が高まってくることが予想される。時代を先取りした形での講義であったと言えるかもしれない。

演習では、対人援助について理論的に振り返った後、支援者が持つ「パワー（権力／特権）」に焦点を当て、頭と体を使ったワークショップを行った。異なる背景を有する移住者を支援する際には、文化の多様性に目を向けるだけではなく、自身の価値規範を規定する文化やマジョリティがもつ権力性に自覚的であることが不可欠である。しかし、これらは、日々の実践の中で、意識しているつもりでも無自覚的に表出してしまうものもある。ワークショップを通して、意識的に捉え直す機会を提供することができた。

3. 考察

1) 知識習得と内省の循環による支援の質の向上

演習は対面で行ったこともあり、オンラインセミナーに比べて申し込みが少なかった。現場での困りごとに関する知識欲が高い傾向がある一方で、内省的な対面ワークショップには参加ニーズを感じる人が少なかったとも言える。しかし、比較的意識ある専門職が集まり、参加者の満足度は高かった。その場に足を運んで初めて気づくことも少なからずあったようである。支援者には自身へのバイアスへの対応が常に求められるが、研修としてまとまっているプログラムは（日本では）少ない。運営上の改善は必要だが、このような研修の継続的実施は支援者の意識向上を促し、移住者支援の質向上につながると考えられる。

2) 専門機関との連携とノウハウの共有

支援者の経験や知識の不足、あるいは特定分野への偏重などから、所属機関の職務や業務を狭義に捉えてしまい、積極的なアウトリーチや支援方法・方針の選択肢を広げるといった柔軟な取り組みが、十分に展開されていない福祉現場は依然として多い。ただし、多様化する社会構成員・家族員のニーズに応じるために、専門機関のアドバイスを得ながら相談支援にあたる現場も、確実に増えつつある。

各自治体や支援機関にとっては初めての対応、あるいは取り扱いが少ないとされる事例であっても、全国的には類似のケースが他地域で発生していることは、ISSJ の相談窓口に寄せられる内容からも明らかである。このような背景から、各自治体や支援機関の支援担当者が、地域や組織の枠を越えて相談対応のノウハウを共有できる機会の提供は、これまで以上に重要となっている。後述のアンケート結果にも見られるように、オンラインセミナーやワークショップなどを通じて、こうした学びと共有の場を継続的に設けていくことが、今後ますます必要になると考えられる。

4. 各回アンケート結果詳細

【テーマ1 社会的養護下にある外国籍の子どもたちへの支援を考える】

「外国籍児童の国籍と在留資格」

申し込み数：108、アンケート回答数：32

1. (社会的養護に関わらず) 外国籍の子どもや家族の在留資格や国籍について、相談を受けたことがある、または、関わったことがありますか。

選択肢	回答数(件)
相談を受けたことがある／関わったことがある（業務、専門職として）	21
相談を受ける可能性がある／関わる可能性がある（業務、専門職として）	5
相談を受けたことがある／関わったことがある（知人、友人、ボランティア等の関りとして）	2
相談を受ける可能性がある／関わる可能性がある（知人、友人、ボランティア等の関りとして）	2
相談を受けたことはない／関わったことはない	2
その他	0

2. 1で「相談を受けたことがある／関りがある」とお答えの方にお伺いします。どのような相談内容／課題であることが多いですか。※複数回答可

選択肢	回答数(件)
在留資格の更新／変更について	18
進学や就職について	13
在留資格の取得について（=在留資格を持っていない状況）	9
在留資格に紐づく社会資源について（使える制度について）	9
結婚や離婚について	8
帰化（日本国籍取得）について	7
生活困窮について	7
国籍取得について	6
その他	2
・ 強制送還について	
・ 日本語学習について	

3. 外国籍の子どもや家族の相談に応じる際、難しいと感じることは何ですか。

※複数回答可

選択肢	回答数(件)
必要な手続きや書類	25
在留資格の把握と変更の可能性についての理解	23
本国法や本国資源の理解、情報収集	16
子どもや家族の生活状況の把握	13
保護者との相互理解	13
在留資格等による利用可能な資源の制限	12

通訳の確保と費用負担	11
子どもの意見の理解と尊重	10
支援者間・他機関との連携	10
国籍が取れているかどうかの確認	10
大使館とのやり取り	9
その他	1
・ 管轄の異なる省庁が下す判断の違い	

4. 社会的養護下にある外国籍の子どもや退所後の子ども、若者の支援に関わったことがありますか。

選択肢	回答数（件）
はい	16
いいえ	16

5. 4で「はい」とお答えの方にお伺いします。社会的養護下にある外国籍の子どもや退所した後の若者のために、どのようなサポートがあることが望ましいと考えますか？※複数回答可

選択肢	回答数（件）
在留資格や国籍に精通した弁護士などの専門家によるアドバイス	14
職員向けに支援方法等に関する情報提供の機会（研修やホームページ）	14
当事者や保護者、本国の親族、本国の行政との連絡調整や情報収集	11
子どもや若者が退所した後に相談できる場所・支援に関する情報	8
子どもや家族への伴走支援	7
その他	0

6. 本日のセミナーはいかがでしたか。

選択肢	回答数（件）
満足	26
やや満足	6
普通／やや不満足／不満足	各 0

その理由（抜粋）：

- 複雑な在留資格について、相談担当者がもっと理解をしておかなければならぬことがよく分かった。また問題が起きてからの相談ではなく将来このような問題が起こらないような啓発活動も必要であると感じた。
- 子どもの就職や進学による在留資格の変更に関しては、子どもの来日年齢によって細かく分かれていることはわかりませんでした。「定住者」「特定活動」をひとくくりにしないで、詳細を把握することの大切さなど、留意するべきことを知れた。
- 特に家族滞在の子どもの進学・就職に関することについて知ることができたから。
- どういうポイントを知っておけばいいのかがぼんやりと把握できました
- 今後益々外国籍児童の相談が増えると思われる所以、在留資格について、分かりやす

く説明頂き、理解を深めることができたから。

- 在留資格や国籍は難しく理解ができていなかったが、研修を受け、内容の整理でき理解が進んだ。
 - 具体的な事例が多く出ており分かりやすかったです。
- 外国につながる子ども達の国籍と在留資格をテーマにした内容のセミナーを初めて受けました。断片的に知っていた知識、直接子ども達と関わった体験などをもとに、体系的に知ることができてとても勉強になりました。
- 個人で在留資格について調べていても理解しづらいことが多かったが、今回のセミナーでは一つ一つの在留資格について詳細に学ぶことができたから。
 - なんとなく分かっていたことの理解が深まりました。
 - 内容が多岐にわたり理解に時間がかかる（もう少し分けて考える時間が欲しかった）

7. 本日のセミナーは、あなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか？

選択肢	回答数（件）
大いに役立つ	17
役立つ	15
どちらでもない／少しは役立つ／役立たない	各 0

その理由（抜粋）：

- 今後、家族滞在の子どもの増加が見込まれる状況においては、対応が求められることがあるのではないかと考えられるから。
- 無国籍の児の入所や、保護者が不法滞在のまま入所をする児の対応が毎年ある為。
- 外国籍の子ども達への支援についての基礎理解に繋がる為。
- 受けた相談がほぼ研修の内容に関わっています。
- 実際に相談を受ける可能性がある中で、注意しないといけないことがある点や、相談先もあるのを知れたため。
- 外国籍の家族はご自分のことで精一杯のようで、細かな事までこちらに伝えてきません。また、職場にもこのようなことに精通した人はいません。ですが、本人の卒業や退所は来年に迫っています。今回、詳しく知ることができて、本当に良かったです。正直、知らないままだと危ないところでした
- 施設入所して関わっている児童の在留カードを目にする機会があったが、在留資格などについて注目した事がなかった。種類やそれによってできることに幅があることを知らなかった。
- 相談内容の理解が深まり、対応の幅が広がる。
- 在留資格の支援は個々の状況が様々で、事例を知っていれば知っているほど、現場で役立つと思います。
- 担当児童の在留資格状況を確認するいい機会となりました。

【テーマ1 社会的養護下にある外国籍の子どもたちへの支援を考える】

「外国籍児童のルーツ・アイデンティティを考える～ライフストーリーワークの視点から」

申し込み数：94、回答数：19

1. 外国籍の要保護児童や社会的養護の児童、ケアリーバー、その保護者からの相談を受けたことがある、または、関わりがありますか。

選択肢	回答数（件）
相談を受けたことがある／関りがある（業務、専門職として）	10
相談を受ける可能性がある／関わる可能性がある（業務、専門職として）	4
相談を受ける可能性がある／関わる可能性がある（知人、友人、ボランティア等の関りとして）	1
相談を受けたことはない／関わったことはない	4
相談を受けたことがある／関わりがある（知人、友人、ボランティア等の関りとして）	0

2. 1で「相談を受けたことがある／関わりがある」とお答えの方にお伺いします。

関わりの中で、日本国籍の子どもとの違いを意識するはどのような時ですか。

※複数回答可

選択肢	回答数（件）
日本国籍の子どもには必要のない手続きや課題が生じる時（在留資格、国籍、パスポート取得など）	9
ライフストーリーワークに際して	4
保護者とのコミュニケーションに際して	3
子どもとのコミュニケーションに際して	2
違いを意識することはない	0
その他	1
・ 考え方の違いや、親子間のコミュニケーションの難しさ	

3. 2の回答について、その理由や対応など、差支えのない範囲で詳しく教えてください。

- ・ 文化文化の違い、価値観の違いによる相互理解の困難さ、措置解除までに十分なライフストーリーが出来ないことの歯がゆさを感じます。
- ・ 国籍取得のような難しい事例はないが、進学や就職、海外への修学旅行時など、外国籍の児童生徒は手続きの上でも日本人より複雑なことが多いが、情報収集・言語面で苦労している。また、児童相談所がかかわるケースで、親族の方からの相談があっても第3者では対応できることが限られるから。
- ・ お子さん自身が、自分で情報を得ること、調べていく作業をすることは難しく、支援が必要
- ・ 保護者が全く日本語ができず、通訳や POCKETALK が不可欠な状況なため。

- 子どもに関してはバイトに受かってから、バイト先に在留カードの就労不可を指摘されて焦ったこともあります。
- 保護者の就労機会や子どもの在留に関するここと
- 両親不在で無国籍の子どもたちへの保障機会

4. 所属する機関・施設において、外国籍または外国ルーツの児童への支援ニーズが高まっていると感じますか。

選択肢	回答数（件）
はい	16
どちらともいえない	3
いいえ	0

5. 社会的養護下にある外国籍の子どもや退所した後の若者のために、どのようなサポートがあることが望ましいと考えますか。※複数回答可

選択肢	回答数（件）
在留資格や国籍に精通した弁護士などの専門家によるアドバイス	15
子どもや若者が退所した後に相談できる場所・支援に関する情報	13
自身のルーツやアイデンティティについて考えられる機会	13
本国の家族や親族との交流の機会	12
子どもや家族への伴走支援	12
同様の背景を持つ子どもたち同士の繋がりの場	11
その他	0

6. 本日のセミナーはいかがでしたか。

選択肢	回答数（件）
満足	18
やや満足	1
普通／やや不満足／不満足	各 0

その理由（抜粋）：

- 無国籍の子どもの支援を一つの機関の相談員だけで行うことは不可能だと思うので、このような事例や組織を知ることが出来たのは、今後のためにも心強い。
- 子どもの選択肢、ということを考えさせられました。大人が考える選択肢が子どもにとって実感のないものであったら、子どもの声を聞いたことにはならないのだと、改めて分かりました。
- 子どもの心情やルーツを大切にしながら、複数の子どもたちの国籍取得という複雑な課題に取り組んだ実績を知った。
- 今回、ご紹介いただいた合掌園の取り組みは、なかなかできないことだと思います。児童相談所もそこまで動けないと思いますし、外国籍のお子さんが増えている日本では、今後、ニーズがより増えていくと思われ、とても貴重な学びの機会になりました

- 家族交流の映像がとても良かったです。また、無国籍の場合の難しさ、子どもに正直であることなど、貴重なお話をたくさん聞くことが出来て良かったです。
- 涙が出るぐらい感動しました。
- 実践を交えた講義だったことが、たいへんよかったです。
- 保護される子どもの親でない自分でもいろいろなことができること、他のところで国籍を取得できていない子どもたちは何人もいることを初めて知りました。
- 普段の業務の範囲では知り得ないような子どもの状況があることに気づかされ、その支援のあり方についても考えるきっかけになったから。
- 同じ児童養護施設の職員として、具体的な事例を挙げて教えていただけたことが、大変深い学びにつながりました。

7. 本日のセミナーは、あなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか？

選択肢	回答数（件）
大いに役立つ	14
役立つ	4
どちらでもない／少しほど役立つ／役立たない	各 0
その他	1
・ 参考にはなったが、役立つとまでは言えない（研究者からの回答）	

その理由（抜粋）

- 熱意に共感し感銘を受けたから
- 子どもの声を聞くために、支援者として出来ることを考える必要を学びました。
- 子どもの心情やルーツを大切にしながら、複数の子どもたちの国籍取得という複雑な課題に取り組んだ実績を知った。
- 関係機関のみなさんに周知し、日本で育つ外国籍の子どもたちが安心して生活できるように活用できればと思っています

児童相談所や母子生活支援施設との連携で支援しており、年々外国籍の子どもの件で支援することが多くなっています。今回のセミナーを児童相談所の方にも参加していただきたいと思いました。

- 子どもの国籍状況の確認や取得など、なるべく早い段階で行ったほうがいいということが分かりました。
- 子どもやその家族への関わり方についての姿勢や、考え方について学ぶことができたから。
- 自身の研究テーマである「外国にルーツを持つ若者・子どものアイデンティティ」に関する内容があまり含まれていなかつたため。

【テーマ2 移住者の多様性に配慮した支援の選択肢を考える】

「移住者支援における「自主的帰国」の選択肢」

申込者数 40、アンケート回答数 17

1. 移住者本人や家族、関係者より「帰国」が視野に入るような相談を受けたことがありますか。

選択肢	回答数 (件)
① 相談を受けたことがある（業務、専門職として）	9
② 相談を受けたことがある（知人、友人、ボランティア等の関りとして）	2
③ 相談を受けたことはないが、「帰国しかないのではないか」と思ったことがある。	2
④ 相談を受ける可能性がある（業務、専門職として）→3. にお進みください	1
⑤ 相談を受ける可能性がある（知人、友人、ボランティア等の関りとして）→3. にお進みください	0
⑥ 相談を受けたことはない→3. にお進みください	3
その他	0

2. 1で①～③と回答された方にお伺いします。どのような相談内容／課題であることが多いですか。※複数回答可

選択肢	回答数 (件)
生活困窮	9
在留資格について	8
医療ニーズ（医療へのアクセス、医療費など）	6
帰国ための費用	5
帰国後の生活の見通し（使えるサービス、社会保障、医療など）	4
住居について（ホームレス状態、退去を迫られているなど）	3
日本社会への適応が難しい	3
帰国ための書類集め（パスポート、本国登録など）	3
その他	0

3. ご所属の組織で提供可能と思われる支援はどのようなものですか。※複数回答可

選択肢	回答数 (件)
当事者の話を聞く	16
当事者の意思確認	13
情報収集と提供（本国情報含む）	10
日本国内の関係者の調整	8
アセスメント、見立て	5
渡航までの住居や生活費の支援	3
渡航までの伴走支援（手続き支援含む）	2
本国（帰国先）の家族や関係者、関係機関とのやり取り	2

組織として、帰国に関わる支援は提供できない	2
渡航費の工面	1
その他	0

4. ご所属の組織で提供可能と思われる支援はどのようなものですか。※複数回答可

選択肢	回答数（件）
当事者の話を聞く	15
当事者の意思確認	13
情報収集と提供（本国情報含む）	10
日本国内の関係者の調整	6
アセスメント、見立て	5
渡航までの伴走支援（手続き支援含む）	4
組織として、帰国に関わる支援は提供できない	3
本国（帰国先）の家族や関係者、関係機関とのやり取り	2
渡航までの住居や生活費の支援	2
渡航費の工面	1
その他	0

5. 「帰国」が選択肢の一つとなる可能性がある当事者を支援するにあたり、どのようなサポートがあることが望ましいと考えますか？※複数回答可

選択肢	回答数（件）
当時者への伴走支援（帰国までの各種手続きなど）	16
当事者が相談できる場所や支援に関する情報	14
帰国費用の援助	11
本国の家族や関係機関との連絡調整や情報収集	10
在留資格等に精通した弁護士などの専門家によるアドバイス	9
支援者を対象とした支援方法等に関する情報提供・共有の機会（研修やウェブサイト）	8
空港等への送迎サービス	6
その他	1
・ 日本にいる大切な人との別れの場をつなげる	

6. 本日のセミナーはいかがでしたか。

選択肢	回答数（件）
満足	15
やや満足	1
普通	1
やや不満足／不満足	各 0

その理由（抜粋）：

- ・ 帰国支援に必要な情報や、帰国までのおおまかな流れについて知ることができた。
- ・ 相談者の帰国への意思形成を難しく感じます。できることならば日本で暮らし続けた

い・・・と思う相談者に対して、選択肢を提示すること、帰国を「説得してはいけない」という点がとても勉強になりました。

- ・ IOM の帰国支援について漠然と聞いていましたが、具体的に知ることができ、よかったです。
- ・ 普段、伺う機会の少ないテーマのお話でたいへん参考になった。
- ・ IOM と ISSJ でご対応された事例を伺うことができたこと。今後、困っている方がいたらご相談してもいいと知れたこと。
- ・ まさに知りたい内容でした

7. 本日のセミナーは、あなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか？

選択肢	回答数（件）
大いに役立つ	10
役立つ	5
どちらでもない／少しは役立つ	各 1
役立たない	0

その理由（抜粋）：

- ・ これまでの支援の中で、「帰国」を選択した人たちの顔を思い浮かべながら聞きましたが、本日提示された課題について、すべて配慮ができていたか振り返りました。今後の支援において整理していく参考になりました。
- ・ 実際に支援が必要な場面になったときに、所属団体でできることは限られているということを再認識することになった。
- ・ 実際に、帰国が視野に入るケースに関わっていたため、有益な情報や考え方をたくさん学ぶことができ、有難かったです。
- ・ これまで IOM の帰国支援をどのように活用できるか知らなかったので参考になった
- ・ 外国籍の方の困窮相談が多く入っているため。
事例を伺えたことで、どのような方にご紹介すればいいかがわかり、すぐにご相談へ動くことができると思ったから。
- ・ 支援者にとって、心強い内容ばかりでした。

【テーマ2 移住者の多様性に配慮した支援の選択肢を考える】

「文化的な理解を踏まえた移住者支援の実践」

参加者：15、アンケート回答数 11

1. 移住者への支援にかかわらず、支援対象者との関わりの中で自分自身の文化や価値観について、これまで意識したことはありますか。

選択肢	回答数（件）
はい	9
いいえ	2

「はい」とお答えの方：それはどのような場面又は内容ですか

- 自身の多文化理解と実際の社会に生きる人々との一致・不一致
- 大学の制度、時間を守ることや試験で答えを教え合うことなど受け入れがたいことに直面すると自分の価値観に気づく。早く日本に染まってくれないかなと思う時がある。
- クライエントとの間より、他のステイクホルダー（行政など）との間で“文化”や“価値観”的違いを感じることが多い。
- 特定の信仰を持たない私が、教会に通う方と相対したときに知識不足、共感不足を実感した
- 子育て、家族のあり方について話すことがあった時
- 学校・臨床の現場で、子育て観や、幸福を感じる姿、そこに至るプロセスなどの違いを感じ、支援目標を設定するところから丁寧にする必要を感じることがあります。

2. 移住者への支援にかかわらず、支援対象者との関わりの中で支援者が持つパワーについて、これまで意識したことはありますか。

選択肢	回答数（件）
はい	8
いいえ	3

「はい」とお答えの方：それはどのような場面又は内容ですか

- 自分が相談担当者、相手がクライエントとなる際のエンパワメント、立場上の力関係を認識すること
- 以前同行支援をしていた時にコミュニティの人々の対話相手がクライエントではなく自分であった。が、クライエントが30才くらいのスーツをきた男の人であるときは対話相手がクライエントになったこと
- 多くの方にパワーがあると感じる。特に移動（移住）する「力」を持っていたからこそ、今ここにいる、と思うので。
- 言語面、対象者の国と文化、価値観を十分に理解していること。それをベースにしてスタート位置にたてると思います。“国”でなく“人”として配慮しあえることを基本に。
- 支援・非支援の関係で自分が支援側に立つ場合、相手からどう見えているかを意識して一方ではなく、相互に得られることがあるように考えていました。
- 自分の子どもの関係。
- 声を上げていく時に、本人が上げるのか、自分が上げるのかで影響力がかわることをふまえて、代弁することがある。
- 言葉ができ制度を知っていて、他のケースを知っていると、クライエントをリードしそうことがある。良かれと思って、支援を準備しても、利用されないこともある。パワーのバランスをとる方法があるのか、知りたい。

3. 移住者からの相談を受けるにあたり、どのようなスキルを身につけたい又は向上させたいですか。※複数回答可

選択肢	回答数（件）
アセスメントスキル	7
信頼関係の構築に関するスキル	5
相談者が抱える問題を整理し、特定するスキル	5
課題解決に向けた計画を立てるスキル	5
相談者の自立に向けて適切に終結させるスキル	5
その他	0

4. 自分自身又は移住者支援に関わる人材の相談援助技術を向上させるためには、何が必要と感じますか。※複数回答可

選択肢	回答数（件）
経験や悩みを共有する場（事例検討会など）	7
異なる文化・価値との接触の増加	7
自己覚知と自己内省の機会	7
学ぶ機会（ワークショップ）	6
異なる文化・価値に関する知識の獲得	5
学ぶ機会（理論）	4
その他	3

・ 知識を得ても感情が追いつかないで自分をなだめる方法というか、うまく相手とつきあい続ける方法を身に着けないといけないと思う。個人的な限界を認識しようというお話をとても参考になりました。

・ 自らが海外で生活する経験

・ セルフヘルプグループ立ち上げプロセスやグループワーク

5. 本日のセミナーを通じて得られた気づきなどありましたらお知らせください。

- ・ 自己覚知の必要性と方法を学べた。職場のスタッフトレーニングに役立てていきたい。
- ・ 支援者が持つパワーについて認識できたことが良かったです。（今まで意識したことがなかったので）
- ・ 自分自身が様々な資源を含めたうえで自分自身のパワーをとらえていることを自覚しました。人によって他者の力をかりること、資源を活用する自分はパワーがないと感じることもあるので、その方の価値観を考慮する必要があると感じました。
- ・ 普段自分を知るところにフォーカスをあてることが少なかったので、とても良い機会だった。
- ・ ケースワーク中心になっており、もっと「孤独」にさせないことの大しさを知りました。
- ・ 個人的・専門的な限界を認識して無理はしないようにしようと思いました自分があまり接することのない分野の方々と意見交換できてよかったです。

- 相手（クライアント）への「決めつけ」が起こる背景として自分への無知があることを考えました。
- 「文化的な謙虚さ」の概念が生まれていることを初めて知った。
- 改めて自分の文化の外に目を向けて考えることの大切さ。

6. 本日のセミナーはいかがでしたか。

選択肢	回答数（件）
満足	10
やや満足	1
普通／やや不満足／不満足	各 0

その理由（抜粋）：

- ワーク、ディスカッション、参加者の問い合わせへの返答も参考になった
- 自分自身を振り返り、またグループの方の実践とつなげて話を聞くことで更に自分の実践とのつながりも振り返る機会になりました。
- 専門職が集まって意見交換することで、産み出されるパワーを感じました。思いを言語化してもらえた。
- 考え方の良い変化、実践に意欲がよりでてきました。
- 講義とグループワークの組み合わせが良かったです。

7. 本日のセミナーは、あなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか。

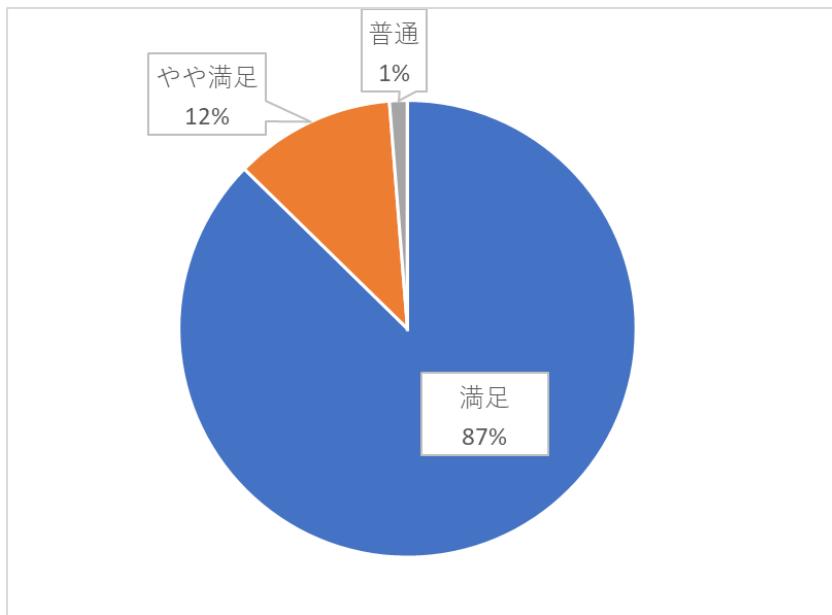
選択肢	回答数（件）
大いに役立つ	8
役立つ	3
少しは役立つ／役立たない	各 0

その理由（抜粋）：

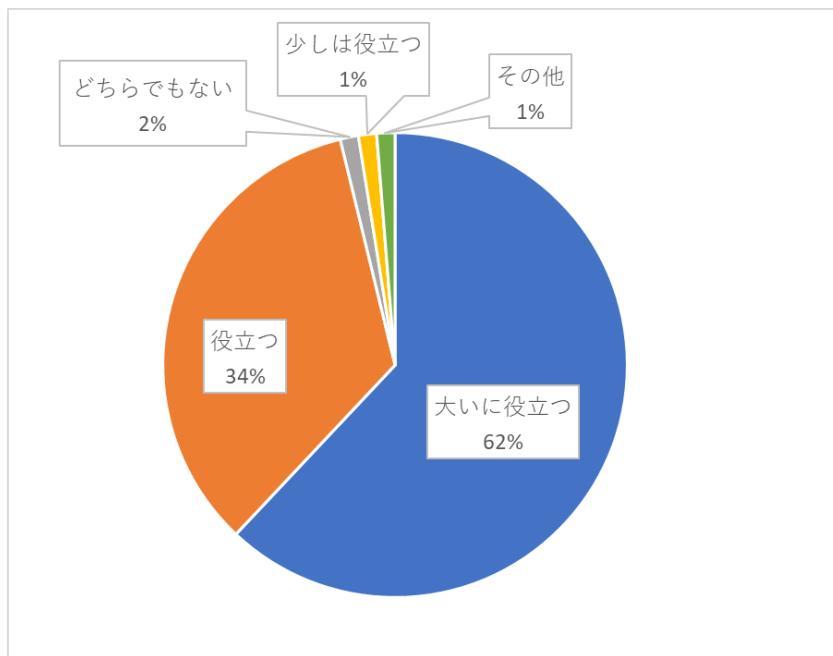
- 自分の文化や価値観等が自分の業務に影響していることが分かったので今後の活動（支援者との接し方）に役立つと思いました。
- ワークが、クライエントがパワーをどう感じるか、理解しやすかった。
- 同様のテーマをさらに深堀したい。社会的養護下にある子と異文化の背景の保護者へ配慮しすぎてしまうところも。
- 移住者にかぎったことではないと感じています。「開放」という言葉が非常に印象的でした。
- 留学生も移住者になる割合が増えてくると思うので、また組織的な体制づくりも必要だと思いました。
- インプットとアウトプットの機会が同時にあったこと。
- 無力感と有力感のセッションではその人の有力感へ影響をあたえる要素が色々あることをあらためて考えました。

【4回に共通の質問（回答数：79件）】

1. 本日のセミナーはいかがでしたか。



2. 本日のセミナーは、あなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか。



3. 今後取り上げてほしいテーマや、セミナーへのコメントがあればお聞かせください。

今後取り上げてほしいテーマ（抜粋）：

- ・ 高度人材じゃない外国人女性たちの仕事探し
- ・ 在留資格制度について。ワーホリとかで来ている外国人の住民登録及び国民年金、国民健康保険への加入が必要かいなかといった関係の話をもっと聞きたい。

- 実際に外国籍児童の在留資格や国籍を支援対応した実例を教えて欲しい。また、外国籍児童を支援する場合、上記以外に支援・注意しないといけないことなど、多文化ソーシャルワーカーについても取り上げて欲しい。
- 家庭の事情で出身国と日本を行き来している子供たちのアイデンティティ形成も関心があります。
- 同じ内容でいいので、情報のアップデートができたらと思います、来年も開催を希望します。
- できれば今回と同じテーマを取り上げてほしい。
- 外国人相談窓口の相談員向けの研修や勉強会があればお願いしたいです。
- 移住者が帰国した後のアプローチについて学びたい。
- ソーシャルワークの専門的教育や訓練を受けていない人がソーシャルワーカー的な役割を担うことが、とくに、この在日外国人にかかわる分野では増えていると感じる。こうした人向けに対人援助のベース（倫理面も含め）を伝える機会を提供して頂けると嬉しい。

コメント（抜粋）：

- 内容が複雑で、法改正や運用の変化もあると思うので、同じ内容でもいいので、定期的に研修として視聴したいと思います。
- 外国籍の子を受け入れたら最低限知っておくことを、やるべきことなどを全施設に周知してもらいたいです。
- いつも見過ごされてしまう部分にフォーカスしている

4. ご所属

